

令和5年度『ビジネス基礎』シラバス

教科	科目名	単位数	対象学年	必修・選択	対象学科	作成者	校長	教頭	教頭
商業	ビジネス基礎	3	1	必修	地域産業科		印	印	印

教科書 副教材	① ビジネス基礎（実教出版） ② ビジネス基礎 問題集（実教出版） ③ 全商 ビジネス計算実務検定模擬試験問題集3級（実教出版） ④ 全商 商業経済検定模擬試験問題集3級 ビジネス基礎（実教出版）
------------	---

科目 目標	○ 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を行うことなどを通して、ビジネスを通じ地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。
----------	--

学期	月	配当時間	学 習 内 容	評価の観点			評 価 規 準
				知	思	態	
1 学 期	4	9	第1章 商業の学習とビジネス 1. いざ、ビジネスの世界へ 2. 私たちの社会とビジネス	○	○	○	○商業の学習及びビジネスの概要について理解している。 ○商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展と関連付けて考案している。 ○ビジネスの基礎的な事項について自ら学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	5	9	第2章 ビジネスとコミュニケーション 1. コミュニケーション 2. ビジネスマナー 3. 情報の入手と活用 第2章の確認	○	○	○	○ビジネスに対する心構えについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ○ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスにおいて他者に対応するとともに、情報を入手して活用し、評価・改善している。 ○ビジネスに対する心構えについて自ら学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	6	1 2	第3章 経済と流通の基礎 1. 経済の仕組みとビジネス 2. 経済活動と流通	○	○	○	○経済と流通について経済社会における事例と関連付けて理解している。 ○経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 ○経済と流通について自ら学び、経済の基本概念を踏まえ、流通と流通を支える活動に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ※期末考査（知識・技能）
	7	7	第4章 さまざまなビジネス 1. ビジネスの種類 2. 小売業	○	○	○	○ビジネスの種類と流通や流通に関わる様々なビジネスについて、経済社会における事例と関連付けて理解している。 ○流通や流通に関わる様々なビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案している。 ○流通や流通に関わる様々なビジネスについて自ら学び、これらの組織の一員として主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

2 学 期	9	1 1	第4章 さまざまなビジネス 3. 卸売業 4. 物流業 5. 金融業 6. 情報通信業	○	○	○ ○	○ビジネスの種類と流通や流通に関わる様々なビジネスについて、経済社会における事例と関連付けて理解している。 ○流通や流通に関わる様々なビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案している。 ○流通や流通に関わる様々なビジネスについて自ら学び、これらの組織の一員として主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	1 0	1 2	第6章 ビジネスと売買取引 1. 売買取引の手順 2. 代金決済	○	○	○	○取引について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ○取引に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案している。 ○取引について自ら学び、適切な契約の締結と履行に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ※中間考査（知識・技能）
	1 1	1 1	第7章 ビジネス計算 1. ビジネス計算の基礎 2. ビジネス計算の応用 ※ビジネス計算実務検定試験対策	○		○	○ビジネス計算について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ○ビジネス計算について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ※期末考査（知識・技能）
	1 2	9	第5章 企業活動の基礎 1. ビジネスと企業 2. マーケティングの重要性 3. 資金調達	○	○	○	○企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解している。 ○企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案している。 ○企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
3 学 期	1	9	第5章 企業活動の基礎 4. 財務諸表の役割 5. 企業活動と税 6. 雇用 ※商業経済検定試験対策	○	○	○	○企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解している。 ○企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案している。 ○企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	2	9	第8章 身近な地域のビジネス 1. さまざまな地域の魅力と課題 2. 地域ビジネスの動向 ※商業経済検定試験対策	○	○	○	○さまざまな地域のビジネスについて理解している。 ○身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興策を考え、実施及び評価・改善を行っている。 ○身近なビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ※学年末考査（知識・技能）
	3	7	第8章 身近な地域のビジネス 1. さまざまな地域の魅力と課題 2. 地域ビジネスの動向 ※これまでの年間のまとめ学習 ※次年度にむけて ※マーケティングについて	○ ○	○	○	○さまざまな地域のビジネスについて理解している。 ○身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興策を考え、実施及び評価・改善を行っている。 ○身近なビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ○これまでのビジネスの基礎の「知識」・「技術」が身についている。
		1 0 5					

3 観点	比重	育成する資質・能力	評価方法・評価
知 識 ・ 技 術	1	○ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。	○ワークシート ○ペーパーテスト ○定期考査
思考・判断・表現	1	○ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	○ワークシート ○グループ発表 ○行動観察 ○ロールプレイング ○定期考査
主体的に学習に取り組む態度	1	○ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。	○行動観察

「簿記」シラバス

校長	教頭	教頭	作成者

学校名	沖縄県立名護商工高等学校		科目名	簿記	
教科書	簿記 東京法令出版（商業710）	単位数	4	時間(回数)	35
問題集	簿記実務検定対策問題集 合格ガイド3級 令和5年度版簿記実務検定模擬試験問題集3級	学年	1	学科	地域産業科

〔指導項目〕	第1編 簿記の基本				
〔指導項目〕の 目標	①	簿記の意味、目的、種類、歴史、必要性、前提および簿記が企業の経営活動を会計帳簿に記録し、計算・表示するものであることについて理解させる。			
	②	資産・負債・純資産の基本的な概念と貸借対照表の役割・構造、収益・費用の基本的な概念と損益計算書の役割・構造および当期純損益の計算方法について理解させる。			
	③	取引の仕訳から勘定の記入を経て決算に至る簿記一巡の手続の基本的な流れについて理解させる。			
	④	簿記における取引の概念、勘定の意味と役割、取引要素の結合関係、貸借平均の原理、仕訳・転記の意味と方法、仕訳帳と総勘定元帳の記帳法、試算表の種類と作成方法、決算の目的および基本的な決算手続について理解させる。			

〔指導項目〕の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
簿記の原理についておおむね理解するとともに、関連する技術のある程度身につけている。	取引を記録することと決算の意義について、企業活動の展開と関連付けてある程度見いだすことができる。	簿記の原理について自ら学び、適正な取引との記録と記録の効果的な活用にある程度取り組もうとしている。

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【知識・技術】 簿記の原理についておおむね理解するとともに、関連する技術のある程度身につけている。	簿記の原理について理解するとともに、関連する技術を身につけている。	簿記の原理についておおむね理解するとともに、関連する技術のある程度身につけている。	簿記の原理についての理解が不十分であり、関連する技術も見付いていない。	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【思考・判断・表現】 取引を記録することと決算の意義について、企業活動の展開と関連付けてある程度見いだすことができる。	取引を記録することと決算の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだすことができる。	取引を記録することと決算の意義について、企業活動の展開と関連付けてある程度見いだすことができる。	取引を記録することと決算の意義を見いだすことができない。	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・発言、発表

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【主体的に学習に取り組む態度】 簿記の原理について自ら学び、適正な取引との記録と記録の効果的な活用にある程度取り組もうとしている。	簿記の原理について自ら学び、適正な取引との記録と記録の効果的な活用にある程度取り組もうとしている。	簿記の原理について自ら学び、適正な取引との記録と記録の効果的な活用にある程度取り組もうとしている。	簿記の原理について進んで学習せず、適正な取引の記録と、記録の効果的な活用に取り組もうとしていない。	・行動観察 ・ワークシート ・発言、発表

指導計画・評価計画

時間 (回)	学習内容	学習目標【ねらい】	評価の観点			評価資料・評価方法
			知	思	態	
2	第1編「簿記の基本」 第1「企業の簿記」 ①簿記の意味②簿記の目的 ③簿記の種類④簿記の歴史 ⑤簿記の必要性⑥簿記の前提	○ガイダンス ○簿記の意味、目的、種類、歴史、必要性、前提および簿記が企業の経営活動を会計帳簿に記録し、計算・表示するものであることについて理解させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
5	第2章「資産・負債・純資産 一貸借対照表」 ①資産②負債 ③純資産④貸借対照表 ⑤当期純損益の計算	○資産・負債・純資産の基本的な概念やその関係性、およびおもな資産・負債・純資産の例を示す。 ○貸借対照表の役割や構造、および期末と期首の純資産を比較して当期純損益を計算する方法を習得させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
5	第3章「収益・費用 一損益計算書」 ①収益②費用 ③当期純損益の計算 ④損益計算書	○収益・費用の基本的な概念やその関係性、およびおもな収益・費用の例を示す。 ○収益と費用を比較して当期純損益を計算する方法、および損益計算書の役割や構造について理解させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
3	第4章「取引と勘定」 ①取引の意味②勘定の意味 ③勘定の種類と勘定科目 ④勘定口座⑤勘定への記入法 ⑥取引要素の結合関係 ⑦貸借平均の原理	○資産・負債・純資産の増減、収益・費用を発生させたりすることがらである簿記上の取引について説明する。○勘定の意味や取引を勘定へ記入する方法について習得させる。 ○取引は借方の取引要素と貸方の取引要素の組み合わせから成り立つことを理解させる。 ○貸借平均の原理について理解させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
5	第5章「仕訳と勘定への記入」 ①仕訳②転記	○仕訳の意味とその方法について理解させる。 ○仕訳を元に、取引を勘定口座へ転記する方法を習得させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
6	第6章「仕訳帳と総勘定元帳」 ①仕訳帳 ②総勘定元帳（元帳）	○取引の発生順に記録する帳簿である仕訳帳について理解させる。 ○すべての勘定口座を集めた帳簿である総勘定元帳について説明する。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
3	第7章「試算表」 ①試算表の意味 ②試算表の種類と作成方法 ③試算表で誤りを発見する方法	○試算表の意味・役割・種類を理解させ、諸試算表の作成方法を習得させる。（合計試算表・残高試算表・合計残高試算表） ○試算表で誤りを発見する方法について理解させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
6	第8章「決算」 ①決算の意味 ②決算の手続き ③精算表④決算の本手続き ⑤決算報告の手続き	○決算に関する基礎的な知識や、決算の一連の流れについて理解させる。 ○一連の決算の手続きに必要な知識、6けた精算表の作成方法、総勘定元帳・仕訳帳を締め切る方法、繰越試算表の作成方法、損益計算書および貸借対照表の作成方法を習得させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
計	35時間		8	8	8	

「簿記」シラバス

学校名	沖縄県立名護商工高等学校		科目名	簿記	
教科書	簿記 東京法令出版（商業710）	単位数	4	時間(回数)	49
問題集	簿記実務検定対策問題集 合格ガイド3級 令和5年度版簿記実務検定模擬試験問題集3級	学年	1	学科	地域産業科

〔指導項目〕	第Ⅱ編 取引の記帳				
〔指導項目〕の 目標	①	簿記上の現金の入金と出金、現金出納帳の作成方法、現金過不足の記帳法、当座預金など預金の預入と引出、当座借越の記帳法、当座預金出納帳の作成方法、その他の預金の記帳法、小口現金の記帳法および小口現金出納帳の作成方法について理解させる。			
	②	商品の仕入れと売上げ、返品と値引き、仕入帳や売上帳、商品有高帳の作成方法など、3分法による商品売買に関する取引の記帳について理解させる。			
	③	掛け取引の記帳法、売掛金元帳・買掛金元帳の作成方法および貸し倒れについて理解させる。			
	④	手形の種類、約束手形の振出・受取・裏書・割引の記帳法および受取手形記入帳・支払手形記入帳の作成方法について理解させる。			
	⑤	前払金・前受金、未収金・未払金、貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、立替金・預り金、仮払金・仮受金および商品券の記帳法について理解させる。			
	⑥	株式や公社債などの有価証券の買い入れと売却の記帳法について理解させる。			
	⑦	個人企業における所得税と住民税、固定資産税、印紙税、消費税の概念およびその記帳法について理解させる。			

〔指導項目〕の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
取引の記帳について、理論と実務とを関連付けて概ね理解するとともに、関連する技術のある程度身につけている。	取引の記帳法を妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応することができる。	取引の記帳について、自ら学び、適正な会計帳簿の作成にある程度取り組もうとしている。

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【知識・技術】 取引の記帳について、理論と実務とを関連付けて概ね理解するとともに、関連する技術のある程度身につけている。	取引の記帳について、理論と実務とを関連付けて概ね理解するとともに、関連する技術のある程度身につけている。	取引の記帳について、理論と実務とを関連付けて概ね理解するとともに、関連する技術のある程度身につけている。	取引の記帳についての理解が不十分であり、関連する技術も見に付いていない。	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【思考・判断・表現】 取引の記帳法を妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応することができる。	取引の記帳法を妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。	取引の記帳法を妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応することができる。	取引の記帳法を妥当性と実務における課題を見いだすことができず、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応することができない。	・行動観察 ・ワークシート ・発言、発表

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【主体的に学習に取り組む態度】 取引の記帳について、自ら学び、適正な会計帳簿の作成にある程度取り組もうとしている。	取引の記帳について、自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	取引の記帳について、自ら学び、適正な会計帳簿の作成にある程度取り組もうとしている。	取引の記帳について、自ら学び、適正な会計帳簿の作成に取り組もうとしていない。	・行動観察 ・ワークシート ・発言、発表

指導計画・評価計画

時間 (回)	学習内容	学習目標【ねらい】	評価の観点			評価資料・評価方法
			知	思	態	
6	第Ⅱ編「各種取引の処理」 第1章「現金・預金の記帳」 ①現金②現金出納帳 ③現金過不足 ④当座預金⑤当座借越 ⑥当座預金出納帳 ⑦その他の預金⑧小口現金	○現金に関する取引の仕訳、現金出納帳の作成方法、および現金過不足の記帳方法を習得させる。 ○当座預金の入出金、当座借越の記帳方法、当座預金出納帳の作成方法、およびその他の預金に関する仕訳について習得させる。 ○定額資金前渡法の意味や小口現金に関する仕訳、小口現金出納帳の作成方法について習得させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
1		1学期末考査	○	○	○	・行動観察 ・問題集
6	第2章「商品売買の記帳」 ①3分法 ②仕入帳 ③売上帳 ④商品有高帳	○3分法による商品売買の記帳方法を習得させる。 ○商品の引渡単価の計算方法として、先入先出法と移動平均法について理解させ、商品有高帳の記帳方法を習得させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
6	第3章「掛取引の記帳」 ①売掛金勘定と売掛金元帳 ②買掛金勘定と買掛金元帳 ③貸し倒れ	○掛け取引に関する仕訳、売掛金と買掛金の関係を理解させ、売掛金元帳や買掛金元帳の記入方法を習得させる。 ○貸し倒れの意味および貸し倒れが生じた場合の仕訳について理解させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
7	第4章「手形取引の記帳」 ①手形の種類 ②約束手形の記帳 ③手形の裏書と割引 ④受取手形記入帳と支払手形記入帳	○約束手形の関係者に発生する手形上の債権・債務の関係を理解させる。 ○為替手形や裏書手形、割引手形の内容と記帳方法を理解させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
7	第5章「その他の債権・債務の記帳」 ①前払金と前受金 ②未収金と未払金 ③貸付金と借入金 ④手形貸付金と手形借入金 ⑤立替金と預り金 ⑥仮払金と仮受金⑦商品券	○その他の債権債務の意味と記帳方法を理解させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
1		2学期中間考査	○	○	○	定期テスト
4	第6章「有価証券の記帳」 ①有価証券 ②有価証券の買い入れ ③有価証券の売却	○株式や社債・公債といった有価証券の意味とその種類について説明する。 ○有価証券の売買に伴う記帳方法について理解させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
4	第7章「固定資産の記帳」 ①固定資産 ②固定資産の取得 ③固定資産の売却 ④固定資産台帳	○固定資産の意味とその種類について理解させる。 ○固定資産の取得と売却に関する取引の記帳方法を習得させる。 ○固定資産台帳の意味や記帳方法を理解させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
2	第8章「販売費と一般管理費の記帳」 ①販売費と一般管理費 ②販売費と一般管理費の記帳	○販売費と一般管理費の概念と種類、販売費及び一般管理費元帳の作成方法について理解させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
2	第9章「個人企業の純資産の記帳」 ①個人企業の純資産 ②追加元入れと引き出し	○個人企業の純資産を増加・減少させる取引、引出金に関する処理の記帳法について理解させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
3	第10章「個人企業の税金の記帳」 ①個人企業の税金 ②所得税・住民税 ③固定資産税・印紙税 ④消費税	○個人企業における所得税と住民税、固定資産税、印紙税、消費税の概念およびその記帳法について理解させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
計	49時間		9	9	9	

「簿記」シラバス

学校名	沖縄県立名護商工高等学校		科目名	簿記		
教科書	簿記 東京法令出版（商業710）	単位数	4	時間(回数)	14	
問題集	簿記実務検定対策問題集 合格ガイド3級 令和5年度版簿記実務検定模擬試験問題集3級	学年	1	学科	地域産業科	

〔指導項目〕	第Ⅱ編 決算（１）	
〔指導項目〕の 目標	①	財務諸表を作成するための棚卸表および８けた精算表を作成する方法について理解させる。
	②	帳簿の締め切りの方法および勘定式の貸借対照表と損益計算書を作成する方法について理解させる。
	③	損益勘定と損益計算書、繰越試算表と貸借対照表のちがいについて理解させる。

〔指導項目〕の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
決算について理論と実務とを関連づけておおむね理解するとともに、関連する技術のある程度身につけている。	決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応することができる。	決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成にある程度取り組もうとしている。

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【知識・技術】 決算について理論と実務とを関連づけておおむね理解するとともに、関連する技術のある程度身につけている。	決算について理論と実務とを関連づけて理解するとともに、関連する技術を身につけている。	決算について理論と実務とを関連づけておおむね理解するとともに、関連する技術のある程度身につけている。	決算についての理解が不十分であり、関連する技術も見に付いていない。	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【思考・判断・表現】 決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応することができる。	決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に主体的かつ協働的に対応することができる。	決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応することができる。	決算の方法の妥当性と実務における課題を見だすことができず、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができない。	・行動観察 ・ワークシート ・発言，発表

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【主体的に学習に取り組む態度】 決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成にある程度取り組もうとしている。	決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成にある程度取り組もうとしている。	決算について進んで学習せず、適正な決算整理と財務諸表の作成に取り組もうとしない。	・行動観察 ・ワークシート ・発言，発表

指導計画・評価計画

時間 (回)	学習内容	学習目標【ねらい】	評価の観点			評価資料・評価方法
			知	思	態	
13	第Ⅲ編「決算(1)」 第1章「決算整理(その1)」 ①決算整理の意味 ②商品に関する決算整理 ③貸し倒れ ④固定資産の減価償却費の計算と記帳 ⑤現金過不足の整理 ⑥引出金の整理⑦棚卸表 ⑧8けた精算表の作成 ⑨帳簿の締め切り(帳簿決算)⑩財務諸表	○決算整理の意味について理解し、売上原価の算定、貸倒れの見積り、固定資産の減価償却費の計算と記帳(定額法と直接法)、現金過不足の整理および引出金の整理に係る記帳法について理解させる。 ○財務諸表を作成するための棚卸表および8けた精算表を作成する方法について理解させる。 ○帳簿の締め切りの方法および勘定式の貸借対照表と損益計算書を作成する方法について理解し、資料をもとに財務諸表を作成する学習活動をさせる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
1		2学期末考査	○	○	○	定期テスト
計	14時間		2	2	2	

「簿記」シラバス

学校名	沖縄県立名護商工高等学校		科目名	簿記		
教科書	簿記 東京法令出版（商業710）	単位数	4	時間(回数)	25	
問題集	簿記実務検定対策問題集 合格ガイド3級 令和5年度版簿記実務検定模擬試験問題集3級	学年	1	学科	地域産業科	

〔指導項目〕	第Ⅳ編 会計帳簿					
〔指導項目〕の 目標	①	主要簿と補助簿など帳簿の種類とそれぞれの関係、企業の方針制度と会計帳簿の関係および帳簿の形式について理解させる。				
	②	証ひょうや伝票の意義および入金伝票・出金伝票・振替伝票の起票方法について理解させる。				
	③	1 伝票制が実務で多く採用されている理由について主体的に考えさせる。				

〔指導項目〕の評価規準		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
会計帳簿の概要と伝票による記帳の効率化について理論と実務とを関連付けておおむね理解すると共に、関連する技術のある程度身につけている。	伝票による記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応することができる。	会計帳簿の概要と記帳の効率化について自ら学び、伝票の利用にある程度取り組もうとしている。

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【知識・技術】 会計帳簿の概要と伝票による記帳の効率化について理論と実務とを関連付けておおむね理解すると共に、関連する技術のある程度身につけている。	会計帳簿の概要と伝票による記帳の効率化について理論と実務とを関連付けて理解すると共に、関連する技術を身につけている。	会計帳簿の概要と伝票による記帳の効率化について理論と実務とを関連付けておおむね理解すると共に、関連する技術のある程度身につけている。	会計帳簿の概要と伝票による記帳の効率化についての理解が不十分であり、関連する技術も見付いていない。	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【思考・判断・表現】 伝票による記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応することができる。	伝票による記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。	伝票による記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応することができる。	伝票による記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見だすことができず、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができない。	・行動観察 ・ワークシート ・発言，発表

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【主体的に学習に取り組む態度】 会計帳簿の概要と記帳の効率化について自ら学び、伝票の利用にある程度取り組もうとしている。	会計帳簿の概要と記帳の効率化について自ら学び、伝票の利用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	会計帳簿の概要と記帳の効率化について自ら学び、伝票の利用にある程度取り組もうとしている。	会計帳簿の概要と記帳の効率化について進んで学習しようとして、伝票の利用に取り組もうとしない。	・行動観察 ・ワークシート ・発言，発表

指導計画・評価計画

時間 (回)	学習内容	学習目標【ねらい】	評価の観点			評価資料・評価方法
			知	思	態	
1	第Ⅳ編「会計帳簿」 第1章「帳簿」 ①帳簿の種類 ②分課制度と帳簿組織 ③帳簿の形式	○主要簿と補助簿など帳簿の種類とそれぞれの関係、企業の分課制度と会計帳簿の関係および帳簿の形式について理解させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
5	第2章「3伝票制による記帳」 ①証ひょう②伝票 ③仕訳伝票の利用④3伝票制	○証ひょうや伝票の意義および入金伝票・出金伝票・振替伝票の起票方法について理解させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
18	全商簿記検定3級対策	○これまで学習してきた内容を確認しながら全商簿記検定3級受験に向けて取り組む。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
1		学年末考査	○	○	○	定期テスト
計	25時間		4	4	4	

「簿記」シラバス

学校名	沖縄県立名護商工高等学校		科目名	簿記		
教科書	簿記 東京法令出版（商業710）		単位数	4	時間(回数)	4
問題集	簿記実務検定対策問題集 合格ガイド3級 令和5年度版簿記実務検定模擬試験問題集3級		学年	1	学科	地域産業科

〔指導項目〕	第Ⅴ編 特殊な取引				
〔指導項目〕の 目標	①	約束手形の書き換え、不渡手形、営業外手形の記帳法について理解させる。			
	②	不渡手形勘定が資産となる理由について主体的に考えさせる。			

〔指導項目〕の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
特殊な手形の記帳について理論と実務とを関連付けて概ね理解すると共に、関連する技術のある程度身につけている。	特殊な手形取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応することができる。	特殊な手形取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の悪性にある程度取り組もうとしている。

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【知識・技術】 特殊な手形の記帳について理論と実務とを関連付けて概ね理解すると共に、関連する技術のある程度身につけている。	特殊な手形の記帳について理論と実務とを関連付けて理解すると共に、関連する技術のある程度身につけている。	特殊な手形の記帳について理論と実務とを関連付けておおむね理解すると共に、関連する技術のある程度身につけている。	特殊な手形の記帳についての理解が不十分であり、関連する技術も身につけていない。	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【思考・判断・表現】 特殊な手形取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応することができる。	特殊な手形取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。	特殊な手形取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応することができる。	特殊な手形取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見出すことができず、科学的な根拠に基づいて課題に対応する事ができない。	・行動観察 ・ワークシート ・発言、発表

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【主体的に学習に取り組む態度】 特殊な手形取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の悪性にある程度取り組もうとしている。	特殊な手形取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	特殊な手形取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成にある程度取り組もうとしている。	特殊な手形取引の記帳について進んで学習せず、適正な会計帳簿の作成に取り組もうとしない。	・行動観察 ・ワークシート ・発言、発表

指導計画・評価計画

時間 (回)	学習内容	学習目標【ねらい】	評価の観点			評価資料・評価方法
			知	思	態	
4	第Ⅴ編「特殊な取引」 第1章「特殊な手形取引の記帳」 ①手形の書き換え ②不渡手形 ③営業外手形	○約束手形の書き換え、不渡手形、営業外手形の記帳法について理解させる。 ○不渡手形勘定が資産となる理由について主体的に考察し、表現させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
計	4時間		1	1	1	

「簿記」シラバス

学校名	沖縄県立名護商工高等学校		科目名	簿記		
教科書	簿記 東京法令出版（商業710）	単位数	4	時間(回数)	5	
問題集	簿記実務検定対策問題集 合格ガイド3級 令和5年度版簿記実務検定模擬試験問題集3級	学年	1	学科	地域産業科	

〔指導項目〕	第Ⅵ編 決算（２）	
〔指導項目〕の 目標	①	○固定資産の減価償却費の計算と記帳（定率法と間接法）、有価証券の評価、当座借越勘定への振り替え、費用・収益の繰延べ・見越しに係る記帳法について理解させる。
	②	○控除形式の貸借対照表と２区分の損益計算書を作成する方法について理解させ、資料をもとに財務諸表を作成する学習活動に取り組ませる。
	③	○前払金と前払費用のちがいについて主体的に考えさせる。

〔指導項目〕の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
決算について理論と実務とを関連付けて概ね理解するとともに、関連する技術のある程度身につけている。	決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応することができる。	決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成にある程度取り組もうとしている。

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【知識・技術】 決算について理論と実務とを関連付けて概ね理解するとともに、関連する技術のある程度身につけている。	決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身につけている。	決算について理論と実務とを関連付けて概ね理解するとともに、関連する技術のある程度身につけている。	決算についての理解が不十分であり、関連する技術も見に付いていない。	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【思考・判断・表現】 決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応することができる。	決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に自主的かつ協働的に対応することができる。	決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応することができる。	決算の方法の妥当性と実務における課題を見いだす事ができず、科学的な根拠に基づいて課題に対応する事ができない。	・行動観察 ・ワークシート ・発言，発表

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法等
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【主体的に学習に取り組む態度】 決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成にある程度取り組もうとしている。	決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に取り組もうとしている。	決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成にある程度取り組もうとしている。	決算について進んで学習しようとせず、適正な決算整理と財務諸表の作成に取り組もうとしていない。	・行動観察 ・ワークシート ・発言，発表

指導計画・評価計画

時間 (回)	学習内容	学習目標【ねらい】	評価の観点			評価資料・評価方法
			知	思	態	
5	第VI編「決算(2)」 第1章「決算整理（その2）」 ①減価償却費の間接法による記帳 ②定率法による減価償却費の計算 ③有価証券の評価 ④当座借越勘定への振り替え ⑤費用・収益の見越し繰り延べ ⑥精算表の作成 ⑦損益計算書・貸借対照表	○固定資産の減価償却費の計算と記帳（定率法と間接法）、有価証券の評価、当座借越勘定への振り替え、費用・収益の繰延べ・見越しに係る記帳法について理解させる。 ○控除形式の貸借対照表と2区分の損益計算書を作成する方法について理解させ、資料をもとに財務諸表を作成する学習活動に取り組ませる。 ○前払金と前払費用のちがいについて主体的に考えさせ、説明させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
計	5時間		1	1	1	

「簿記」シラバス

学校名	沖縄県立名護商工高等学校		科目名	簿記		
教科書	簿記 東京法令出版（商業710）	単位数	4	時間(回数)	4	
問題集	簿記実務検定対策問題集 合格ガイド3級 令和5年度版簿記実務検定模擬試験問題集3級	学年	1	学科	地域産業科	

〔指導項目〕	第Ⅶ編 本支店会計					
〔指導項目〕の 目標	①	○支店会計が独立している場合の本店と支店間の取引、支店が計上した当期純損益の処理、支店相互間の取引の記帳法について理解させる。				
	②	○支店会計が独立している場合の本店と支店における決算手続の流れ、未達取引の整理方法、内部利益を含まない合併財務諸表の作成方法について理解させる。				
	③	○本支店の財務諸表を合わせて企業外部の利害関係者に報告することの意義ないし必要性について主体的に考えさせる。				

〔指導項目〕の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
本支店会計について理論と実務とを関連づけて概ね理解するとともに、関連する技術のある程度身につけている。	本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応する事ができる。	本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引の記録および財務諸表の合併にある程度取り組もうとしている。

評価規準	具体的な評価規準			評価方法等
学習内容	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【知識・技術】 本支店会計について理論と実務とを関連づけて概ね理解するとともに、関連する技術のある程度身につけている。	本支店会計について理論と実務とを関連づけて理解するとともに、関連する技術を身につけている。	本支店会計について理論と実務とを関連づけて概ね理解するとともに、関連する技術のある程度身につけている。	本支店会計についての理解が不十分であり、関連する技術も見付いていない。	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト

評価規準	具体的な評価規準			評価方法等
学習内容	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【思考・判断・表現】 本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応する事ができる。	本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する事ができる。	本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題にある程度対応する事ができる。	本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見出す事ができず、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができない。	・行動観察 ・ワークシート ・発言、発表

評価規準	具体的な評価規準			評価方法等
学習内容	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する	
【主体的に学習に取り組む態度】 本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引の記録および財務諸表の合併にある程度取り組もうとしている。	本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引の記録および財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引の記録および財務諸表の合併にある程度取り組もうとしている。	本支店会計について進んで学習せず、適正な本店・支店間取引の記録および財務諸表の合併に取り組もうとしていない。	・行動観察 ・ワークシート ・発言、発表

指導計画・評価計画

時間 (回)	学習内容	学習目標【ねらい】	評価の観点			評価資料・評価方法
			知	思	態	
4	第Ⅶ編「本支店会計」 第1章「本支店間の取引」 ①支店会計の独立 ②本店・支店間の取引 ③支店相互間の取引	○支店会計が独立している場合の本店と支店間の取引、支店が計上した当期純損益の処理、支店相互間の取引の記帳法について理解させる。 ○支店会計が独立している場合の本店と支店における決算手続の流れ、未達取引の整理方法、内部利益を含まない未達取引の整理方法について理解させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
4	第2章「本支店財務諸表の合併」 ①本支店財務諸表合併の必要性 ②未達取引の整理 ③合併貸借対照表の作成 ④合併損益計算書の作成	○本支店の財務諸表を合わせて企業外部の利害関係者に報告することの意義ないし必要性について主体的に考察し、表現させる。	○	○	○	・行動観察 ・問題集 ・ワークシート ・テスト
計	8時間		2	2	2	

令和5年度 商業（1年情報処理：地域産業科）シラバス

学校名		課程	校長名	教頭名		担当者名
県立名護商工高等学校		全日制				
科目名	単位数	標準単位数	対象学科・コース・類型・系列	対象学年・組	必修・選択	使用する教科書
情報処理	3	2～4	地域産業科	1年5組	必修	情報処理（実教 商業 7 1 6）
特記事項						
科目目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。【知識及び技術】 （２）企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。【思考力・判断力・表現力】 （３）企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】					
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度	
	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	

成績評価

- ・評価は3観点の評価基準への到達具合を見取る
- ・成績の評価は観点別の絶対評価とし、学年末のみ5段階の評価を表示する

年間指導計画表												
月	予定時 数	実施時 数	指導項目	指導内容（教科書）	評価の観点			評価規準・評価方法			振り返り	
					知	思	態	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
4	2		第1章 企業活動と情報処理 1節 情報処理の重要性 ①情報の意義と役割 ②情報システム ③ビジネスとコンピュータ	・身近な事例を基に情報とは何かを考える学習活動により、情報の意義と役割について指導する。 ・社会で利用されている情報システムの例や、ビジネスにおける情報活用の実際を学ぶことにより、コンピュータを利用した情報の処理や活用の重要性を指導する。 ・情報処理に関わる職業や仕事を学ぶことにより、ICT人材に求められる役割と身に付けるべき能力について指導する。 (教科書P7～19)	○	○	○	・情報システムの構成や処理方式の概要を理解している。 ・日常利用しているさまざまな情報システムに関心を持ち、その意義や役割を考え、理解している。 〔評価方法〕 小テスト（形成的評価） 教科書P37演習問題_1（統括的評価）	・情報の意義と重要性について考え、説明することができる。 ・情報システムの構成や処理方式の具体的な利用例を説明できる。 〔評価方法〕 ワークシート（統括的評価）	・ビジネスにおける情報の役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身につけようとする取り組みができる。 ・情報処理の重要性について関心を持ち、情報処理について主体的に学習しようとしている。 〔評価方法〕 行動観察（形成的評価） ルーブリック（統括的評価）		
			第1章 企業活動と情報処理 2節 情報モラルと法規 ①情報社会の価値とモラル ②情報社会と法規 ③個人情報の保護 ④知的財産の保護	・身近な事例から情報の価値を考える学習活動により、情報を正しく取り扱うことの大切さに気づき、そのために必要な情報モラルの基本的な考え方や態度について指導する。 ・情報を取り扱う上で守るべき法規の必要性について、具体的な事例と関連付けて指導する。 (教科書P20～29)	○	○	○	・情報を取り扱う上で守るべき法律を理解している。 ・個人情報や知的財産を保護することの意義を理解している。 〔評価方法〕 小テスト（形成的評価） 教科書P37演習問題_2（統括的評価）	・情報を取り扱う上で守るべき法律の目的と概要を説明できる。 ・身近な事例で情報モラルにもとづいた正しい行動のあり方を考え、説明することができる。 〔評価方法〕 ワークシート（統括的評価）	・法令を遵守しようとする態度を身に付けようとする取り組みができる。 ・情報モラルにもとづいた正しい行動をしようとする態度を身に付けようとしている。 〔評価方法〕 行動観察（形成的評価） ルーブリック（統括的評価）		
			第1章 企業活動と情報処理 3節 コミュニケーションと情報デザイン ①情報デザインの重要性 ②情報デザインの影響と効果	・企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を指導する。 (教科書P30～38)	○	○	○	・情報処理における情報デザインについて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 〔評価方法〕 ポスター制作（統括的評価）	・情報処理における情報デザインの意義と課題について、企業活動と関連付けて見いだせる。 〔評価方法〕 ワークシート（統括的評価） 教科書P37演習問題_3（統括的評価）	・企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組むことができる。 〔評価方法〕 行動観察（形成的評価） ルーブリック（統括的評価） 教科書P38探求問題_1.2（統括的評価）		
		2	第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 1節 コンピュータシステムの概要 ①ハードウェア ②ソフトウェア	・コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ハードウェアとソフトウェアの種類と機能について理解するとともに、それを活用する基本的な技術を指導する。 (教科書P39～59)	○	○	○	・コンピュータの基本的な機能と構成を理解している。 ・コンピュータの機能を実現するためのソフトウェアについて、その種類や特徴を理解している。 〔評価方法〕 小テスト（形成的評価） 教科書P90演習問題_1（統括的評価）	・ビジネスに活用できるハードウェアとソフトウェアを適切に構成して、その機能を活用することができる。 〔評価方法〕 ワークシート（統括的評価）	・コンピュータシステムのしくみについて、主体的に学習しようとしている。 〔評価方法〕 行動観察（形成的評価） ルーブリック（統括的評価）		
	2											
5	2		第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 2節 情報通信ネットワークのしくみと構成 ①情報通信ネットワークの役割 ②情報通信ネットワークの構成 ③インターネットのしくみ	・情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の検索と活用方法について指導する。 (教科書P60～71)	○	○	○	・情報通信ネットワークを構成する機器の種類や特徴について理解している。 〔評価方法〕 小テスト（形成的評価） 教科書P90演習問題_2（統括的評価）	・検索・収集にインターネットを利用することに興味を持ち、効率的な検索をし、表現することができる。 〔評価方法〕 ワークシート（統括的評価）	・情報通信ネットワークが実現する利便性や、情報通信ネットワークの仕組みについて、主体的に学習しようとしている。 〔評価方法〕 行動観察（形成的評価） ルーブリック（統括的評価）		
			第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 3節 インターネットの活用 ①Webページの検索 ②Webページの活用 ③電子メールの活用	・Webページを活用してビジネスに関する情報を検索・収集する方法について指導する。 ・情報の正確さと価値を見極める方法について指導する。 ・電子メールの利用方法について指導する。 (教科書P72～81)	○	○	○	・検索エンジンやブラウザの活用方法などのインターネットを用いて情報を収集するための技術を身に付けている。 〔評価方法〕 小テスト（形成的評価） 教科書P90演習問題_3（統括的評価）	・インターネットで入手した情報の信ぴょう性について判断し、情報を適切に収集・活用する方法について考え、表現することができる。 〔評価方法〕 ワークシート（統括的評価）	・情報を適切に活用するための情報リテラシーを身に付けようとする主体的かつ協働的に学習しようとしている。 〔評価方法〕 行動観察（形成的評価） ルーブリック（統括的評価）		
			第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 4節 情報セキュリティの確保 ①セキュリティ管理の重要性 ②セキュリティの管理	・情報化社会に参画するために個人が身に付けるべきセキュリティ管理の方法について指導する。 (教科書P82～90)	○	○	○	・情報セキュリティを脅かすリスクについて理解している。 ・個人が身に付けるべき方や様々な問題点などについて理解している。 〔評価方法〕 小テスト（形成的評価）	・情報技術におけるセキュリティ管理について興味を持ち、対策などを考察し、表現することができる。 〔評価方法〕 ワークシート（統括的評価）	・個人や企業が情報セキュリティについて配慮することの重要性を理解し、情報セキュリティを確保する方法について主体的に学習しようとしている。 〔評価方法〕 行動観察（形成的評価） ルーブリック（統括的評価） 教科書P90探求問題（レポート）（統括的評価）		
		1	中間考査		○	○	○	〔評価方法〕 定期考査（統括的評価）	〔評価方法〕 定期考査（統括的評価）	〔評価方法〕 定期考査（統括的評価）		
	6	2		第3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計 ①表計算ソフトウェアの活用例 ②統計の基礎	・統計的手法を用いてビジネスに関する情報を分析することの重要性について指導する。 ・情報を分析して、傾向を把握する能力を身に付けるためにビジネスを想定した題材を用いて指導する。 (教科書P91～99)	○	○	○	・統計で扱うデータの種類やデータを収集するための調査方法について理解している。 〔評価方法〕 ワークシート（形成的評価） 教科書P99演習問題_1・2（統括的評価）	・情報を分析して適切に表現することができる。 〔評価方法〕 ワークシート（形成的評価） 教科書P99演習問題_1・2（統括的評価）	・情報の重要性について理解するとともに、情報を分析して適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができる。 〔評価方法〕 行動観察（形成的評価） ルーブリック（統括的評価）	
				第3章 情報の集計と分析 2節 関数を利用した表の作成 ①データの入力と計算式の設定 ②基本的な関数（1）	・基本的な操作や計算式及び関数について理解し、目的に応じて適切な表の作成する技術を身に付け、表やグラフを用いて伝えたいことを表現する方法について指導する。 (教科書P100～125)	○	○	○	・基本的な操作や関数等について理解している。 ・表を作成する技術を習得している。 〔評価方法〕 ワークシート（形成的評価） 実技例題（形成的評価） 教科書P125演習問題_1・2・3（統括的評価）	・目的に応じた表を作成するために、どの関数を使用のかを判断し、適切な結果を表現することができる。 〔評価方法〕 ワークシート（形成的評価） 実技例題（形成的評価）	・表を完成するために、基本的な操作や関数の使用方法を主体的に身につけようとする取り組みができる。 〔評価方法〕 行動観察（形成的評価） ルーブリック（統括的評価） 練習実技問題（形成的評価）	
7	4											
	2	期末考査 答案指導			○	○	○	〔評価方法〕 定期考査（統括的評価）	〔評価方法〕 定期考査（統括的評価）	〔評価方法〕 定期考査（統括的評価）		

[illegible]

令和５年度 商業（2年観光類型：総合実践）シラバス

学校名			課程	校長名	教頭名			担当者名	
県立名護商工高等学校			全日制						
科目名		単位数	標準単位数	対象学科・コース・類型・系列		対象学年・組	必修・選択	使用する教材など	
総合実践		3	2～4	地域産業科（観光類型）		2年5組	必修	ビジネスコミュニケーション検定テキスト	
特記事項									
科目目標		観光の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）観光産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。【知識及び技術】 （２）観光ビジネスに関する課題を発見し、観光ビジネスに携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。【思考力・判断力・表現力】 （３）課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】							
評価の観点		知識・技術		思考・判断・表現			主体的に取り組む態度		
		観光産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。		観光ビジネスに関する課題を発見し、観光ビジネスに携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。			課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。		
年間指導計画表									
月	予定時数	実施時数	指導項目	指導内容	評価の観点			評価規準・評価方法	振り返り
					知	思	態		
4	7		1. オリエンテーション	・授業概要，評価方法についての説明 ・観光の総合実践についての説明			○	・課題研究の目標及び学習の意義を理解し，主体的に取り組もうとする態度を身に付けようとしている。 〔評価方法〕ワークシート・行動観察	
5	12		2. 職業資格の取得に向けた取り組み 3. ビジネスマナー	・目標設定及び学習計画作成 ・目標達成に向けた学習 ・身だしなみ，あいさつ ・コミュニケーションとは，言葉づかい ・印象の良い表情，身のこなし ・訪問時のマナー ・電話の応対 ・面接試験のマナー	○	○	○	・適切な職業資格に関する課題を設定している。 ・職業資格の取得に対して，目標を達成するために計画を立て，積極的に取り組もうとしている。 ・身だしなみとともに表情や身のこなしが第一印象の決め手になることを理解し，具体的な実践を通して身に付けようとしている。 ・訪問時や電話の応対に関するルールの意味を考えさせ，場面に応じて適切な方法を判断し，実践できるように取り組もうとしている。 〔評価方法〕ワークシート・行動観察・小テスト	
6 7	24		4. 観光ガイド学習	・中学校対象羽地地区ガイド実習に向けた調査及び資料作成	○	○	○	・プレゼンテーションソフト（Power Point）を活用し，観光ガイド実習に向けてのスライドを作成しようとしている。 〔評価方法〕レポート・プレゼンデータ・行動観察	
9 10	24		4. 観光ガイド実習・実践	・中学校対象羽地地区ガイド実習に向けた調査及び資料作成 ・観光ガイド学習実践		○	○	・プレゼンテーションソフト（Power Point）を活用し，観光ガイド実習に向けてのスライドを作成しようとしている。 ・グループ内で説明ポイントの役割分担を行い，各自の役割に対して真剣に取り組む，より良いガイド実習を制作しようと協働的に取り組もうとしている。 〔評価方法〕ワークシート・行動観察	
11	9		5. 県外研修事前学習	・県外研修旅行の概要について ・職業体験：テレビ番組制作について ・学科研修の事前研究について ・企業訪問について ・接客（おもてなし）について	○	○	○	・県外研修旅行を行う目的と意義を理解し，主体的に取り組もうとする態度を身に付けようとしている。 ・グループ内でテレビ番組制作の役割分担を行い，各自の役割に対して真剣に取り組む，より良い番組を制作しようと協働的に取り組もうとしている。 ・学科研修で訪問する企業について事前研究として，インターネットなどを活用し多くの情報を収集しようとしている。 ・各自の興味のある職種や企業について事前に調べ，訪問する際の質問事項などを考えようとしている。 ・接客（おもてなし）について，社会人として就職したときに活かすことができるように，積極的に学習に取り組もうとしている。 〔評価方法〕ワークシート・行動観察	
12	9		6. 県外研修旅行 7. 県外研修旅行報告会準備	・県外研修旅行（３泊４日） ・報告書の作成 ・プレゼンテーションの準備	○	○	○	・出発の集合時間から帰宅まで各自で旅程を確認し，時間を守り行動しようとしている。また，各研修について日誌を記入し振り返りを行っている。 ・ワープロソフト（W o r d）を活用し，研修旅行の成果を新聞形式のレポートで，他者へ研修旅行の成果を伝えられるように作成しようとしている。 ・プレゼンテーションソフト（Power Point）を活用し，研修旅行の成果を発表するためにスライドを作成しようとしている。 〔評価方法〕日誌・レポート・プレゼンデータ・行動観察	
1	6		8. 職場実習	・北部観光業に依頼し、職場実習を実施。 ・業種は観光業に特化し、テーマパーク、旅行業、お土産品店、観光施設の４種類の観光産業で職場実習を行う。	○	○	○	・県外研修の学習成果を振り返るとともに，発表を通して表現力を身に付けようと努力している。また，他者の発表を聞き共感などのリアクションを表現しようとしている。 〔評価方法〕発表・ワークシート・行動観察	
2	10		9. 職場実習学習と成果・発表に向けての取り組み	・発表パワーポイントの作成 ・プレゼンテーションの準備	○		○	・職場実習学習後の発表に向けて，主体的，計画的に取り組もうとしている。 ・プレゼンテーションソフト（Power Point）を活用し，観光ガイド実習に向けてのスライドを作成しようとしている。 〔評価方法〕ワークシート・行動観察	
3	4		10. 職場実習の学習成の発表	・学習報告書（レポート）の作成 ・パワーポイントによるプレゼン発表	○	○	○	・職場実習学習後の発表に向けて，主体的，計画的に取り組もうとしている。 〔評価方法〕ワークシート・行動観察	
計	105								

科目名	総合実践			対象学科	教科名	商 業	校長	教頭	教頭
学 年	2 年	単位数	3 単位	地域産業科 地域創生類型	担当者名				

【年間目標】

1. マーケティング分野に関連するビジネスについて実務に即して総合的に理解するとともに、基礎的、基本的な知識と技術を身に付けさせる。【知識・技術】
2. 知識・技術を総合的に活用し、ビジネスの実務における課題を発見するとともに、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。【思考・判断・表現】
3. ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	マーケティング分野に関連するビジネスについて実務に即して総合的に理解するとともに、基礎的、基本的な知識と技術を身に付けている。	知識・技術を総合的に活用し、ビジネスの実務における課題を発見するとともに、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

月	学習内容	学習目標	評価材料	配当時間
4 5	(1)総合実践の学習目標と学習心得 (2)地域理解学習 ・ 北部地域の特産品調べ ・ 特産品講習会 ・ 連携団体、企業等講習会	・ 名護市をはじめとする北部地域の実情及び課題を知り、地域理解を深める。	学習態度 提出物(プリント・レポート)	1 1
5 6	(3)商品の企画 ・ 環境分析と意思決定の準備 ・ 市場調査 ・ 商品コンセプトの策定 ・ 商品企画の考案	・ 環境分析や市場調査に基づいて、商品コンセプトをはじめとする商品企画を考案することができる。	学習態度 提出物(プリント・報告書) 期末考査	1 6
7 9	(4)商品企画の提案 ・ プレゼンテーション資料作成 ・ 連携企業等へ商品企画の提案	・ 商品の企画について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、商品の企画に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	発表内容・態度 提出物(プリント)	1 9
10 11	(5)商品仕様の詳細設計と評価及び改善 ・ 試作品の評価 ・ 課題の発見及び改善方法の考案 ・ 開発商品の決定 (6)パッケージデザイン制作実習 ・ キャッチコピー、写真、イラスト等素材の作成 ・ 連携企業等へパッケージデザインの提案	・ 試作品などの評価を基に課題を発見し、商品の企画や仕様の詳細を改善することができる。 ・ パッケージに必要な機能、要素等について考察し、パッケージデザインを制作することができる。	学習態度 提出物(プリント) 中間考査 制作物 期末考査	2 2
12 1	(7)販促物制作実習 ・ パンフレット制作 ・ ポスター制作 ・ SNS 等での情報発信 ・ 連携企業等へ販促物の提案	・ 配色や構成などデザインに関する基礎的な知識を活用し、ポスター等販促物を制作することができる。	学習態度 提出物(プリント) 制作物	2 1
2 3	(8)報告会の実施 ・ プレゼンテーション資料作成 ・ 校内報告会 (9)1 年間の振り返り	・ プレゼンテーションに必要な技術を身につけ、表現活動が行えている。	学習態度 提出物(プリント・レポート) 発表内容・態度 学年末考査	1 6

1 観点別学習状況の評価の数量化

評 価	内 容	判定基準
A	十分に理解できると判断されるもの	8 0 %以上
B	おおむね満足できると判断されるもの	5 0 %～7 9 %
C	努力を要すると判断されるもの	5 0 %未満

2 履修上の注意

- （１）社会人として望ましい心構えやビジネスマナーを身につけ、連携企業や地域の方々と適切にコミュニケーションをとるよう心がけること。
- （２）不明な点は積極的に質問し、取り組みに対する理解を深めるようにすること。
- （３）課題は期限までに確実に提出すること。
- （４）授業態度・身なりも評価の対象とするので注意すること。

教科	科目名	学年	単位数	対象学科		校長	教頭	教頭
商業	観光ビジネス	2年	2単位	地域産業科（観光類型）				

【年間目標】

- (1) 観光の意義や役割、目的、働きについて理解させる。
- (2) 観光に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、観光業の特色や地域社会に与える影響や役割について理解させる。
- (3) 観光に携わる社会人としてのマナーを身に付ける。
- (4) 地域の観光産業について学習し、フィールドワーク等の実践を通して観光について興味・関心を持たせる。
- (5) 沖縄戦について知識を深める。

月	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			評価規準（評価方法）	予定時数
			知	思	態		
4	観光を学ぶ意義と観光の様々な効果	観光についての基本的な知識と、観光がもたらす様々な効果を理解させる。	○		○	・『観光ビジネス』の学習内容について理解している。 ・観光ビジネスの概要について理解している。	5
5	観光に関わる言葉 観光のしくみ 地域について学ぼう （羽地地域の名所学習、史跡巡り）	観光についての基本的な知識、特にホスピタリティー精神の重要性を理解させる。 地域の魅力を発見させる。	○	○	○	・沖縄観光の動向について自ら学び、主体的かつ協働的に学習に取り組んでいる。 ○学習態度 ○提出物 ○小テスト	8
6	観光資源と観光対象 沖縄県の観光資源と観光客地域について学ぼう （羽地ガイド実習資料作成） 沖縄地域学習	観光資源とは何かを理解させる。 沖縄県の観光資源が観光客にもたらす影響を理解させる。 地域の魅力を発見させる。	○	○	○	・観光資源とは何かを理解している。 ・沖縄県の観光資源が観光客にもたらす影響を理解できている。 ・地域の魅力を発見できている。 ○学習態度 ○提出物 ○小テスト	8
7	観光産業の構成と特徴 羽地地域学習ガイド実習資料作成	観光産業の構成と特徴を理解する。 地域の魅力を中学生へ伝える。 観光に携わる人材の基本としての、コミュニケーション能力を身につける態度を養う。	○	○	○	・観光産業の構成と特徴を理解している。 ・地域の魅力を伝えることができています。 ○学習態度 ○提出物 ○小テスト	
	期末考査		○	○			1

月	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			評価規準（評価方法）	予定時数
			知	思	態		
9 10	観光ガイド実習・実践	中学校対象羽地地区ガイド実習に向けた調査及び資料作成 羽地地区ガイド実習		○	○	・プレゼンテーションソフト（Power Point）を活用し、観光ガイド実習に向けてのスライドを作成しようとしている。 ・グループ内で説明ポイントの役割分担を行い、各自の役割に対して真剣に取り組み、より良いガイド実習を制作しようと協働的に取り組もうとしている。 ○学習態度 ○提出物 ○小テスト	18
	中間考査		○	○			1

11	県外研修事前学習	県外研修旅行の概要について	○	○	○	・ 県外研修旅行を行う目的と意義を理解し、主体的に取り組もうとする態度を身に付けようとしている。 ・ グループ内でテレビ番組制作の役割分担を行い、各自の役割に対して真剣に取り組む、より良い番組を制作しようと協働的に取り組もうとしている。 ・ 学科研修で訪問する企業について事前研究として、インターネットなどを活用し多くの情報を収集しようとしている。 ・ 接客（おもてなし）について、社会人として就職したときに活かすことができるように、積極的に学習に取り組もうとしている。 ○学習態度 ○提出物 ○小テスト	14
12		職業体験：テレビ番組制作について					
		学科研修の事前研究について					
		企業訪問について					
		接客（おもてなし）について					
	期末考査		○	○			1

月	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			評価規準（評価方法）	予定時数
			知	思	態		
1	職場実習	北部観光業に依頼し、職場実習を実施。 業種は観光業に特化し、テーマパーク、旅行業、お土産品店、観光施設の4種類の観光産業で職場実習を行う。	○	○	○	・ 県外研修の学習成果を振り返るとともに、発表を通して表現力を身に付けようとしている。 また、他者の発表を聞き共感などのリアクションを表現しようとしている。	17
2	観光資源と観光対象	「観光資源」の意味とは。 観光資源と観光対象について理解する。 観光対象の特徴を調べる	○	○	○	・ 観光ビジネスの目標及び学習の意義を理解し、主体的に取り組もうとする態度を身に付けようとしている。	
	観光産業の構成と特徴	観光産業と定義と種類について理解する。 観光産業・観光ビジネスの特徴について理解する。	○	○	○	・	
3	様々な観光ビジネス	旅行業とは 旅行業の歴史 旅行業の商品と携帯 旅行業と地域の関わり	○	○	○		

1 科目全体の評価の観点の趣旨

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	観光産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	観光ビジネスに関する課題を発見し、観光ビジネスに携わる者として解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法 評 定	○ワークシート ○単元テスト ○定期考査	○ワークシート ○グループ発表 ○定期考査	○行動観察 ○ワークシート

2 観点別学習状況の評価の数量化

評 価	内 容	判定基準
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満

教科	科目名	学年	単位数	対象学科	担当者名	校長	教頭	教頭
商業	商品開発と流通	2年	2単位	地域産業科（地域創生類型）				

【年間目標】

- 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、商品開発と流通に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

月	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			評価規準（評価方法）	予定時数
			知	思	態		
4	Introduction 1 なぜ商品開発と流通は行われるのか？ 2 なぜ『商品開発と流通』を学ぶのか？	日常生活を送るために、商品は必要不可欠なものであり、それを入手するためには流通も重要であることを理解する。 『商品開発と流通』の概要を理解する。	○			・商品開発と流通が一連のものであることを理解している。	1
5	1 章 商品開発と流通の概要 1 私たちの生活と商品 2 商品開発の意義と手順 3 商品と流通との関わり	商品の成り立ちおよびその捉え方について理解する。 商品開発の意義、新商品の捉え方、商品ライフサイクルについて理解する。 商品開発の手順について理解し、学習の見通しをたてる。 流通の仕組みについて、事例を調査して考察する。 市場環境とマーケティングの変化、流通チャネルの多様化について理解する。	○			・『商品開発と流通』の学習内容について理解している。	13
	確認問題		○			・現代市場における商品開発と流通の概要について理解している。 ・現代市場の特徴と関連付けて、商品開発の意義と課題を見出すことができる。 ・商品開発の手順とともに、学習計画が立てられている。 ・商品と流通との関わりについて、具体的な事例と関連付けながら、思考できている。 ・経済や消費者の動向について自ら学び、主体的かつ協働的に学習に取り組んでいる。	
6	2 章 商品の企画 1 環境分析と意思決定の準備	商品の企画に必要な環境分析について、企業における事例と関連付けて理解する。 商品開発の方針を策定し、標的市場を整理して開発する商品テーマを決定することを理解する。	○	○		・企業の事例を取り上げられている。 ・マクロ分析、ミクロ分析の技術が身に付いている。 ・商品ライフサイクルおよび STP について理解している。	13
7	2 市場調査 3 商品コンセプトの策定 4 商品企画の提案	環境分析に基づいて、市場調査を行い、そこから商品の企画に関する課題を発見する。 商品コンセプトの内容について理解するとともに、ブレインストーミングなどの技法を用いて、商品企画につながるアイデアを考える活動を行う。 商品コンセプトを考察し、具体的に商品企画書の各項目をまとめる。 商品企画書を基にプレゼンテーションを行い、評価、改善を行う。 実習に積極的に取り組む。	○	○		・市場調査から商品の企画に関する課題を発見する。 ・ブレインストーミングなどの技法を用いて、アイデアの創出が行えている。 ・アイデア創出に当たり、主体的かつ協働的な取り組みを行っている。	
	実習 商品の企画		○		○	・商品の企画について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、商品の企画に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・プレゼンテーションに必要な技術を用いて、表現活動が行えている。 ・実習に積極的に取り組んでいる。	
	確認問題		○			・商品の企画について理解している。	
	期末考査		○	○			1

月	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			評価規準（評価方法）	予定時数
			知	思	態		
9	3章 事業計画の立案	商品開発と流通における事業計画について、その目的や手順について理解する。	○			・事業計画の目的に合わせて、一連の流れを理解している。	14
10	1 事業計画の概要	競争環境や需要予測等に基づいた、価格の設定の考え方を理解する。	○			・価格の設定方法を理解している。	
	2 価格計画	さまざまな価格政策について、企業における事例と関連付けて考察する。		○		・企業の事例を取り上げられている。	
	3 流通計画	流通チャネルの種類と特徴について理解する。			○	・価格政策ごとに戦略に違いがあることに気付いている。	
	4 プロモーション計画	プロモーション計画について、企業における事例と関連付けて理解する。	○			・流通チャネルの種類と特徴から、流通計画について理解している。	
	5 事業計画書の作成	事業の展開に必要な項目をまとめ、事業計画書を作成する。		○		・企業におけるプロモーション活動の事例を取り上げ、それぞれの特徴を理解している。	
	実習 事業計画の立案	作成した事業計画書を基にプレゼンテーションを行い、評価、改善を行う。		○		・科学的な根拠に基づいて事業の展開に必要な項目をまとめ、事業計画書を立案できている。	
					○	・事業計画の各項目について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、事業計画書を主体的かつ協働的に作成している。	
	確認問題		○		○	・プレゼンテーションに必要な技術を用いて、表現活動が行えている。	
	中間考査		○	○			1
11	4章 商品の開発	商品仕様と詳細設計について、企業における事例と関連付けて理解する。		○		・企業の事例を取り上げられている。	13
12	1 商品仕様と詳細設計	プロトタイプの種類と目的について理解する。				・プロトタイプの種類と目的を理解している。	
	2 プロトタイプ	プロトタイプを用いたテスト及び評価により、課題をあきらかにすることを理解する。	○			・プロトタイプを用いたテストと評価により、課題を見つけ、改善する必要性を理解している。	
	3 商品とデザイン	商品デザインの役割や要素、種類等について理解する。	○			・市場調査から商品の企画に関する課題を発見する。	
	実習 パッケージをデザインする	商品デザインの技法について、具体的な事例と関連付けて分析する。	○			・企業の事例を取り上げて、商品デザインの技法について分析できている。	
		パッケージに必要な機能、要素等について考察し、パッケージデザインを行う。		○		・パッケージについての考察が行えている。	
	実習 ポスターをデザインする	コンピュータを用いて、ポスターのデザインを行う。			○	・パッケージデザインを作成できている。	
		ブランドについて、機能、構成要素等を理解する。		○		・コンピュータを用いて、ポスターデザインが行えている。	
	4 ブランド	知的財産権の内容、重要性について理解する。			○	・ブランドの機能、構成要素等を理解している。	
	5 知的財産権の登録	偽ブランドや偽キャラクター商品等の知的財産権の侵害について、具体的な事例と関連付けて分析、考察する。	○			・知的財産権の内容や、手続き方法の違いを理解している。	
	確認問題		○			・知的財産権の侵害について、科学的な根拠に基づいて、具体的な事例について分析、考察ができている。	
			○	○		・商品の開発について理解している。	
	期末考査		○	○			1

月	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			評価規準（評価方法）	予定時数
			知	思	態		
1	5 章 商品の販売	販売員活動について，プロセス，役割等を理解する。	○			・販売員活動におけるプロセス，役割等を理解している。	13
	1 販売員活動	セールス・プロモーションについて理解し，企業における具体的な事例と関連付けて分類する。		○		・企業の事例を取り上げ，顧客の購買心理に基づいたセールス・プロモーションが行われていることに気付いている。	
2	2 セールス・プロモーション	実習に際して，流通とプロモーションに関する課題を発見する。			○	・流通とプロモーションについて，自ら学び，経済や消費者の動向を踏まえて，主体的かつ協働的に取り組んでいる。	
	実習 商品の販売	実習のための計画を立案して実施し，評価・改善を行う，		○		・科学的な根拠に基づいて，実習計画を立案し，実施後に課題を見つけ，評価・改善している。	
	確認問題	顧客ニーズの多様化から，デザイン思考について企業における具体的な事例と関連付けて理解する。	○			・商品の販売について理解している。	
	学年末考査		○	○		・企業の事例を取り上げて，デザイン思考の商品開発について理解できている。	
3	6 章 商品開発と流通に関わる新たな展開	流通の新たな展開として情報システムの変化が流通に影響を及ぼしていることを理解する。	○			・情報システムの変化が効果的・効率的な流通に結びついていることを理解している。	
	1 商品開発の新たな展開	感覚を活かしたプロモーション活動等を，企業における事例と関連付けて考察する。	○			・企業の事例を取り上げて考察できている。	
	2 流通の新たな展開			○		・商品開発と流通に関わる新たな展開について理解している。	
	3 感覚を活かした商品開発・流通		○				
	確認問題		○				

1 科目全体の評価の観点の趣旨

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解し，商品の企画からプロモーションまでの様々な場面で役に立つ商品開発に関する知識と，流通の立場から捉えた取引対象としての商品に関する知識を身に付けている。	商品開発と流通をはじめとした様々な知識や情報などを活用し，商品開発と流通の動向や課題を発見するとともに，ビジネスに関わる様々な立場に立って，妥当性と課題などの視点から，科学的な根拠に基づいて商品開発と流通に関する計画を立案したり，提案したりしている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら商品開発と流通について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち，他者と信頼関係を構築して積極的に関わり，商品開発と流通に関する学習活動に責任をもって取り組もうとしている。
評 価 方 法 評 定	○ワークシート ○単元テスト ○定期考査	○ワークシート ○グループ発表 ○定期考査	○行動観察 ○ワークシート

2 観点別学習状況の評価の数量化

評 価	内 容	判定基準
A	十分に理解できると判断されるもの	8 0 %以上
B	おおむね満足できると判断されるもの	5 0 %～7 9 %
C	努力を要すると判断されるもの	5 0 %未満

令和5年度「課題研究」シラバス

教科名	科目名	単位数	対象学科	対象学年	使用教材
商業	課題研究	3	地域産業科	3	各自が設定した課題による問題集・模擬問題集・プリント等

月	時間	単元名	指導目標	学習内容及び活動	評価方法	
4	9	●オリエンテーション ●セルフマネージメントの技法 ●学習年間計画作成 ●目標に向けた学習	・「課題研究」の意義を理解し自らの興味・関心との関連を考慮した上で課題を選択させるようにする ・年間計画を立てることにより継続的な学習の取り組みを図る ・PDCA サイクルやセルフマネージメントなど目標達成に必要な技法を学ぶ ・日誌に記録をとることで、毎時の反省を活かし、目標達成を図る ・学習計画に基づき学習を進める	○「課題研究」の意義、構成内容・希望調査 ○課題設定及び班分け(2分野6班) (1)作品制作(1班) (2)資格取得(5班) ○目標設定 ○学習計画作成 ○日誌の記入方法 ・日誌記入(毎時間)	確認テスト 日誌提出 取組状況 期末考査 年間計画 自己評価	
5	8	●目標達成に向けた学習	・学習計画に基づき学習を進める	・日誌記入(毎時間) ・目標及び学習計画の見直し		
6	12		・作品を作る喜びや達成感を身につける			
7	12	●1学期の反省	・担当教諭と相談し、学習状況に応じて計画の見直しを行う			
9	13	●2学期課題検討・確認	・確認後の学習計画に基づき学習を進める	・日誌記入(毎時間) ○クラス究発表会の準備 ・プレゼンテーションの準備 ・報告書の作成	確認テスト 日誌提出 取組状況 期末考査 年間計画 目標達成状況	
10	13		・作品を作る喜びや達成感を身につける			
11	10		●課題研究発表会準備			・担当教諭と相談し、学習状況に応じて計画の見直しを行う
12	12		●2学期の反省			

1	10	●課題研究発表会	・1年間の取り組みについて レポートにまとめ発表する	○クラス発表会の実施 ・3学期取組状況確認 ・プレゼンテーション ○全体発表会の実施	卒業考査 日誌提出 取組状況
2	6	●3学期の反省	・課題研究の学習成果を発表 し、自分の進路についてどう 活かすか考える	○学習成果発表	

総時間数105時間

令和5年度 総合実践 シラバス

校 長	教 頭	教 頭	作成者

教科	科目	学年	単位数	対象学科・コース
商業	総合実践	3年	5単位	地域産業科 観光類型

1 科目「総合実践」について

学習の到達目標	1 これまでに学んだ、観光およびサービスに関する知識と技術を、実践的活動を通して総合的に習得させる 2 ホスピタリティー精神あふれるおもてなしができる
---------	--

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
観光・サービスについて広く関心を持ち、その意義や役割を理解し、積極的に学習に取り組んでいるか。 また、学習内容に対して予習・復習を行っているか	授業内容のテーマについて自ら考察を深め、これまでに学んだ知識・技術を活用し、総合的に判断し処理することができるか。また、それらをレポートにまとめ発表することができる	これまで学んだ観光に関する基礎的知識を活かし、ガイド活動や観光に関する商品（マップや旅行計画）を開発することができるか	これまで学んだ基礎的・基本的な知識を身につけているとともに、地域社会や経済社会における観光の意義や役割を理解しているか 接客サービスに関する知識を十分理解している
具体例 ・学習態度 ・ガイド活動	・学習態度 ・ワークシート ・提出物 ・発表	・学習態度 ・発表 ・レポート	・定期考査 ・単元ごとの小テスト ・提出物

3 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評 価 内 容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	80～100	5
十分満足できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容(評価の観点)及び※留意点	評価方法・指導	補助教材	
1	4	16	○観光ガイド学習 ・中学生対象東江地区ガイド実習に向けた調査および資料作成 ・観光ガイド実践 ○国際交流プログラム ・インドネシア留学生との交流会へ向けた資料作成 ・交流会	○地域の観光地について理解を深める ○地域ガイドを通じてコミュニケーション能力を身につける ○グローバルな物の見方考え方を身につける ○発信力を身につける	○関心・意欲・態度 ○知識・理解 ○関心・意欲・態度 ○技能 ○思考・判断・表現 ○知識・理解	○学習態度 ○提出物 ○小テスト	新聞記事 プリント	
	5	16					インターネット	
	6	21						
	7	15						
1学期の評価方法			探求活動、実践状況、発表（約60％）＋観点別評価（出欠、授業態度、ノート提出状況など約40％）を総合的に判断して評価する。ただし、規定の授業時数に満たない生徒は評価保留とする。					
学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容(評価の観点)及び※留意点	評価方法・指導	補助教材	
2	9	20	○商工祭（販売実習・展示）資料作成 ○観光ガイド学習実践 ・小学生向けガイド実習に向けた調査および資料作成 ・観光ガイド実践	○これまでの学習の成果を地域へ発信する。 ○地域理解を深め、観光地の魅力発信力を身に着ける ○観光に必要コミュニケーション力を身に着ける	○関心・意欲・態度 ○技能 ○思考・判断・表現 ○知識・理解 ○関心・意欲・態度 ○思考・判断・表現 ○知識・理解	○学習態度 ○提出物	地域の観光 マップ 資料集	
	10	20						
	11	20					○レポート ○発表 ○勤務態度 ○職業体験日誌	インターネット
	12	16						
2学期の評価方法			探求活動、実践状況、発表（約60％）＋観点別評価（出欠、授業態度、ノート提出状況など約40％）を総合的に判断して評価する。ただし、規定の授業時数に満たない生徒は評価保留とする。					
学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容(評価の観点)及び※留意点	評価方法・指導	補助教材	
3	1	20	○今帰仁城跡フィールドワーク ・事前学習 ・フィールドワーク ・事後学習 ・発表会	○地域の観光地について理解を深める ○フィールドワークを通して学習したことをプレゼン資料にまとめて発信力を身につける。	○関心・意欲・態度 ○技能 ○思考・判断・表現 ○知識・理解 ○関心・意欲・態度 ○技能 ○思考・判断・表現 ○知識・理解	○学習態度 ○提出物 ○学習報告書	インターネット	
	2	10					パワーポイント	
3学期の評価方法			探求活動、実践状況、発表（約60％）＋観点別評価（出欠、授業態度、ノート提出状況など約40％）を総合的に判断して評価する。ただし、規定の授業時数に満たない生徒は評価保留とする。					
学年の評定方法			各学期の平均点をもとに、総合的に評価する(5段階評価)					

科目名	対象学科	学年	単位数	教科名	担当者名	校長	教頭	教頭
総合実践	地域産業科 地域創生類型	3年	5単位	商 業				

【年間目標】

1. マーケティング分野に関連するビジネスについて実務に即して総合的に理解するとともに、基礎的、基本的な知識と技術を身につけさせる。
2. 知識・技術を総合的に活用し、ビジネスの実務における課題を発見するとともに、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
3. 地域の課題解決や地域振興学習等の実践的・体験的な学習を通して、ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

月	学習内容	学習目標	評価材料	配当 時間
4 5	(1)販促物等制作実習 ・ポスター、チラシ制作 ・SNS等での情報発信 ・連携企業等へ販促物の提案 (2)販路開拓 ・営業活動	・2学年にて開発したオリジナル商品の販売に向けて、販促物等の制作及び販路開拓を行う。 ・配色や構成などデザインに関する基礎的な知識を活用し、ポスター等販促物を制作することができる。 ・効果的な説得を行うための要素を理解している。	学習態度 提出物 制作物	35
6 7	(3)研究発表大会準備 ・プレゼンテーション作成 ・シナリオ作成 ・発表リハ	・発表に向け、主体的かつ協働的な取り組みを行っている。 ・プレゼンテーションに必要な技術を身につけ、表現活動が行えている。	学習態度 提出物 期末考査 発表内容	38
9	(4)校内発表会準備 ・プレゼンテーション作成 ・シナリオ作成	・プレゼンテーションに必要な技術を身につけ、表現活動が行えている。	学習態度 提出物 発表態度	22
10	(5)オリジナルセレクトギフト企画販売実習 ・特産品選定 ・製造企業調査	・商業活動に関する知識を総合的に活用し、主体的、創造的に行う能力と態度を育てることを目的に、地域特産品のPRができるセレクトギフトを製作する。	学習態度 提出物 期末考査	20
11	・販促物作成実習	・顧客の購買心理に基づいたセールスプロモーションを行えている。		23
12	・販売実習準備 ・販売実習			17
1	・収支報告書作成 ・報告会準備	・簿記会計の知識を活用し、収支報告書の作成ができる。	学年末考査 提出物	15
2	・報告会 (6)振り返り	・プレゼンテーションに必要な技術を身につけ、表現活動が行えている。	報告会	5

1 観点別学習状況の評価の数量化

評 価	内 容	判定基準	得 点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

2 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評 価 内 容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの	80～100	5
十分満足できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

3 履修上の注意

- (1) 社会人として望ましい心構えやビジネスマナーを身につけ、連携企業や地域の方々と適切にコミュニケーションをとるよう心がけること。
- (2) 不明な点は積極的に質問し、取り組みに対する理解を深めるようにすること。
- (3) 課題は期限までに確実に提出すること。
- (4) 授業態度・身なりも評価の対象とするので注意すること。

令和5年度 総合実践 シラバス

校 長	教 頭	教 頭	作成者

教科	科目	学年	単位数	対象学科・コース
商業	総合実践	3年	5単位	地域産業科 観光コース

1 科目「総合実践」について

学習の到達目標	1 これまでに学んだ、観光およびサービスに関する知識と技術を、実践的活動を通して総合的に習得させる 2 ホスピタリティー精神あふれるおもてなしができる
---------	--

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
観光・サービスについて広く関心を持ち、その意義や役割を理解し、積極的に学習に取り組んでいるか。 また、学習内容に対して予習・復習を行っているか	授業内容のテーマについて自ら考察を深め、これまでに学んだ知識・技術を活用し、総合的に判断し処理することができるか。また、それらをレポートにまとめ発表することができる	これまで学んだ観光に関する基礎的知識を活かし、ガイド活動や観光に関する商品（マップや旅行計画）を開発することができるか	これまで学んだ基礎的・基本的な知識を身につけているとともに、地域社会や経済社会における観光の意義や役割を理解しているか 接客サービスに関する知識を十分理解している
具体例 ・学習態度 ・ガイド活動	・学習態度 ・ワークシート ・提出物 ・発表	・学習態度 ・発表 ・レポート	・定期考査 ・単元ごとの小テスト ・提出物

3 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評 価 内 容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	80～100	5
十分満足できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容(評価の観点)及び※留意点	評価方法・指導	補助教材
1	4	16	○観光ガイド学習 ・中学生対象東江地区ガイド実習に向けた調査および資料作成 ・観光ガイド実践 ○国際交流プログラム ・インドネシア留学生との交流会へ向けた資料作成 ・交流会	○地域の観光地について理解を深める ○地域ガイドを通じてコミュニケーション能力を身につける ○グローバルな物の見方考え方を身につける ○発信力を身につける	○関心・意欲・態度 ○知識・理解 ○関心・意欲・態度 ○技能 ○思考・判断・表現 ○知識・理解	○学習態度 ○提出物 ○小テスト	新聞記事 プリント
		16					
	6	21					インターネット
		7					
1学期の評価方法			探求活動、実践状況、発表（約60％）＋観点別評価（出欠、授業態度、ノート提出状況など約40％）を総合的に判断して評価する。ただし、規定の授業時数に満たない生徒は評価保留とする。				
学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容(評価の観点)及び※留意点	評価方法・指導	補助教材
2	9	20	○商工祭（販売実習・展示）資料作成 ○観光ガイド学習実践 ・小学生向けガイド実習に向けた調査および資料作成 ・観光ガイド実践	○これまでの学習の成果を地域へ発信する。 ○地域理解を深め、観光地の魅力発信力を身に着ける ○観光に必要コミニケーション力を身に着ける	○関心・意欲・態度 ○技能 ○思考・判断・表現 ○知識・理解 ○関心・意欲・態度 ○思考・判断・表現 ○知識・理解	○学習態度 ○提出物 ○レポート ○発表 ○勤務態度 ○職業体験日誌	地域の観光マップ 資料集
		10					
	11	20					インターネット
		12					
2学期の評価方法			探求活動、実践状況、発表（約60％）＋観点別評価（出欠、授業態度、ノート提出状況など約40％）を総合的に判断して評価する。ただし、規定の授業時数に満たない生徒は評価保留とする。				
学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容(評価の観点)及び※留意点	評価方法・指導	補助教材
3	1	20	○今帰仁城跡フィールドワーク ・事前学習 ・フィールドワーク ・事後学習 ・発表会	○地域の観光地について理解を深める ○フィールドワークを通して学習したことをプレゼン資料にまとめて発信力を身につける。	○関心・意欲・態度 ○技能 ○思考・判断・表現 ○知識・理解 ○関心・意欲・態度 ○技能 ○思考・判断・表現 ○知識・理解	○学習態度 ○提出物 ○学習報告書 ○学習態度 ○学習報告書 ○発表	インターネット
		2					
	2	10					パワーポイント
3学期の評価方法			探求活動、実践状況、発表（約60％）＋観点別評価（出欠、授業態度、ノート提出状況など約40％）を総合的に判断して評価する。ただし、規定の授業時数に満たない生徒は評価保留とする。				
学年の評定方法			各学期の平均点をもとに、総合的に評価する(5段階評価)				

令和 5 年度 シラバス

教科名	商業	科目名	マーケティング	学年	3年地域産業科 (地域創生類型)
教科書	「マーケティング」(商業336) 実教出版			単位数	3単位

担当者	印	校長	印	教頭	印	教頭	印
-----	---	----	---	----	---	----	---

1 科目「マーケティング」について

学習の到達目標	1. 激しく変化する現代市場においてマーケティングが果たす役割とその意義を理解させる。 2. マーケティングに関する体系的な知識と技術を習得させる。 3. マーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を育てる。 4. マーケティングに関連する職業への認識を深めさせ、進路選択の幅を広げる。
---------	--

2 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内 容	判定基準	得 点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

3 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価内 容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	80～100	5
十分満足できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

4 履修上の注意

- (1) 学習内容が『ビジネス基礎』よりもさらに高度・実践的になるため、教科書や新聞等を活用し、理解を深める。
- (2) 検定前には課外講座も実施されるので、必ず受講すること。
- (3) 授業の際には、教科書・問題集・ファイルの準備を確認しておくこと。
- (4) 不明な点は積極的に質問して、理解を深めるようにすること。
- (5) 授業態度・身なりも評価の対象とするので注意すること。

学期	月	時間	学習内容	学習目標	評価方法・指導
1	4	8	第1章 現代市場とマーケティング 1 現代市場の特徴 2 マーケティングの概要	・現代市場が生まれた背景とその特徴について理解させる。 ・マーケティングの本質に触れさせる。	行動観察 課題提出 小テスト 期末考査
	5	10	第2章 市場調査 1 市場調査の意味 2 市場調査の手順 3 実態調査の方法	・市場調査が、マーケティング活動の出発点であることをあることを理解させる。 ・内部資料と外部資料について、それぞれの特徴と使用法を理解させる。 ・資料の収集・集計・分析・解釈の意味をそれぞれ正しく把握させる。	
	6	12	第3章 消費者行動 1 消費者行動と購買 2 購買意思決定過程 3 製品のライフサイクルと普及	・購買を消費者による問題解決行動として位置づけ、5段階からなるその意志決定過程を理解させる。 ・生活上の問題意識から動機が生まれ、それが消費者を購買へと駆り立てることを理解させる。 ・資料の収集・集計・分析・解釈の意味をそれぞれ正しく把握させる。	
	7	8	第4章 販売計画 1 販売計画と販売予測 2 販売計画の立案・実施・統制	・販売計画は、企業の積極的な意思を示すものであり、マーケティングに関連するすべての計画の前提となることを理解させる。 ・販売計画の立案、実施、統制の流れを理解させる。 ・計画と実績を絶えず比較・検討し、活動を統制することの重要性を認識させる。	

2	9	12	第5章 製品計画 1 製品計画の概要 2 製品ミックスと製品政策	・商品計画の内容を、活動の主体別に整理させる。 ・製品計画は、企業の利益を実現と社会の長期的発展の基礎となるものであることを認識させる。 ・新製品開発が社会を発展させ、企業を繁栄に導くことを理解させる。 ・製品ライン、製品アイテム、製品ミックスの関係を明確に把握させる。	行動観察 課題提出 小テスト 中間考査 期末考査
	10	12	第6章 仕入計画と商品管理 1 仕入計画 2 商品管理 第7章 販売価格 1 販売価格の決定	・仕入計画の立案においては、仕入優先ではなく、販売優先の考え方が重要であることを認識させる。 ・商品管理の業務は、在庫管理と商品の物的管理からなることを把握させる。 ・様々な価格の種類と販売価格の構成について概観させるとともに、値入について理解させる。	
	11	12	2 価格戦略 第8章 販売経路 1 販売経路の設定 2 販売経路の強化	・店舗に示されている販売価格には、さまざまな工夫や思惑が込められていることを実感させ、そのようにして価格を演出することこそが販売価格政策の神髄であることを理解させる。 ・販売経路は多数の企業によって構成されており、販売経路政策は、そのチームワークを高めるための作戦であることを理解させる。 ・販売経路の系列化について理解させる。	
	12	11	第9章 販売促進 1 販売促進の重要性	・販売促進を企業と消費者のコミュニケーション活動として理解させる。その上で、販売促進の説得機能を認識させる。	

3	1	10	2 広告 3 販売員活動 4 ブランド	・広告の役割について、経済的なものと社会的なものに分けて理解させる。 ・販売促進における販売員活動の位置づけを理解させる。	行動観察 課題提出 卒業考査
	2	10	5 信用販売 6 その他の販売促進		

令和5年度 観光学シラバス

校長	教頭	教頭	担当者

教科	科目	学年	単位数	対象学科・コース
商業	観光学	3年	3単位	地域産業科 観光類型

1 科目「観光学」について

学習の到達目標	1 沖縄県の基幹産業である観光の基礎的な知識と技術を習得させる 2 ホスピタリティー精神あふれるおもてなしができる 3 フィールドワークを通しての探究活動を行い、発表する力を養う
使用教科書	○ 観光学基礎（JTB 総合研究所発行） （副教材） 自主作成プリント、ワークシート

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
観光分野について広く関心を持ち、その意義や役割を理解し、基礎的・基本的な知識の習得に向け意欲的に学習に参加し、主体的に取り組み態度を身につけているか	観光に関する分野について自ら考察を深め、経済と関連する諸問題等を的確に判断できるか。また、それらをレポートにまとめ発表することができる	これまでの学習で学んだマナーや態度を身につけているか ディベート等を通し、コミュニケーション能力と表現力を身につけさせる	これまで学んだ基礎的・基本的な知識を身につけているとともに、地域社会や経済社会における観光の意義や役割を理解しているか 観光にかかわる用語を理解しているか
具体例 ・学習態度 ・提出物（ノート等） ・単元ごとの小テスト	・学習態度 ・提出物（レポート） ・ワークシート ・発表	・学習態度 ・発表	・定期考査 ・単元ごとの小テスト

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

※評価簿の作成を行う。（例：4観点別評価簿及び実際評価簿については別紙）

4 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価内容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	80～100	5
十分満足できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容(評価の観点)及び※留意点	評価方法・指導	補助教材
1	4 5	16	第9章様々な観光ビジネスについて学習する。 (宿泊産業他) 1. 宿泊産業の歴史と発展 2. 様々な宿泊施設の分類 3. ホテルの機能と業務 4. 温泉観光地と温泉旅館 沖縄地域学習(北部地域のテーマパーク)	○観光におけるビジネスは多様であることを理解させる ○宿泊施設の種類を理解するとともに、そこで働く内容ややりがいなどを考える	○関心・意欲・態度 ○思考・判断・表現	○学習態度 ○提出物 ○発表	プリント 新聞記事
	6	12	第10章 観光と情報について学習する。 1. 観光行動と情報 2. 観光情報の媒体 3. 効果的な観光情報の発信・提供方法	○観光における情報について、整理・活用できる	○関心・意欲・態度 ○思考・判断・表現 ○知識・理解	○学習態度 ○提出物 ○小テスト ○定期考査 ○発表	プリント 新聞記事
	7	11	沖縄地域学習 大宮小学校ガイド実習へ向けた取り組み	観光に携わる人材の基本的なコミュニケーション能力とホスピタリティ精神を身に着ける態度を養う。	関心・意欲・態度 ○思考・判断・表現 ○知識・理解	○学習態度 ○提出物 ○発表	
1学期の評価方法			定期考査(約60%) + 観点別評価(出欠、授業態度、ノート提出状況など約40%)を総合的に判断して評価する。ただし、規定の授業時数に満たない生徒は評価保留とする。				

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容(評価の観点)及び※留意点	評価方法・指導	補助教材
2	9 10	121 2	第11章 観光政策と観光行政の働きについて学習する。 第12章 観光のマーケティングについて学習する。 沖縄地域学習 大宮小学校ガイド実習	○行政の働きを理解させる ○本県の現状を理解するとともに、行政の活動について理解する ○地域の魅力を小学生に伝える	○関心・意欲・態度 ○知識・理解 ○技能 ○思考・判断・表現	○学習態度 ○提出物 ○小テスト ○定期考査 ○発表	プリント 新聞記事
	11 12	12 12	第13章 旅の歴史とこれからの旅行について学習する。 第14章 観光と国際経済・社会・文化について学習する	○サステナブルツーリズムについて理解を深める。 ○インバウンドと異文化理解	○関心・意欲・態度 ○知識・理解 ○思考・判断・表現	○学習態度 ○提出物 ○定期考査	プリント 新聞記事
2学期の評価方法			定期考査(約60%) + 観点別評価(出欠、授業態度、ノート提出状況など約40%)を総合的に判断して評価する。ただし、規定の授業時数に満たない生徒は評価保留とする。				

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容(評価の観点)及び※留意点	評価方法・指導	補助教材
3	1	12	沖縄地域学習 ○県内にある『世界遺産』について学習する ○北部地域の自然や特産品、芸能について学習する	○県内の『世界遺産』について理解を深める ○	○知識・理解 ○思考・判断・表現 ○技能	○学習態度 ○提出物 ○定期考査	プリント 新聞記事
	2	6	沖縄地域学習発表会	○成果発表を通して、沖縄県の観光の魅力を再確認する。	○知識・理解 ○技能 ○関心・意欲・態度 ○思考・判断・表現	○学習態度 ○提出物 ○定期考査 ○発表	プリント 新聞記事
3学期の評価方法			定期考査（約60％）＋観点別評価（出欠、授業態度、ノート提出状況など約40％）を総合的に判断して評価する。ただし、規定の授業時数に満たない生徒は評価保留とする。				
学年の評価方法			各学期の平均点をもとに、総合的に評価する(5段階評価)				

教科名	商 業	科目名	ビジネス経済応用	使用教材	ビジネス経済応用 (実教出版)	校長	教頭	教頭
学年・学科	3年 地域産業科 地域創生類型	単位数	2単位	担当者名				

【年間目標】

- I ビジネスに必要な経済に関する知識を習得させ、経済社会の動向について理解させる。
 II サービス経済社会に適切に対応する能力と態度を育てる。

1. 年間学習計画

月	学習内容	学習のねらい・目標	配当時間	評価材料
4	第1章 サービス経済化とサービス産業 1. 産業構造の変化と労働 2. サービス産業の現状	●わが国における産業構造の移りかわりや、サービス経済化の進展要因について、労働市場の変化、消費構造の変化を通して理解させる ●経済の発展にともなって出現した新しいサービス産業の役割と、その特徴について理解させる。 ●対個人サービス産業や対事業所サービス産業の現状について、ビジネスの機会をとらえて成長した企業の具体的な事例を通して理解させる。	26 時間	確認テスト
5	第2章 経済の国際化 1. 企業の国際化・グローバル化	●企業は成長を求めて国際的なビジネス活動を展開し、その活動が国際化からグローバル化へ進展していることを理解させる。 ●わが国企業のグローバル化の実態を具体的に理解させる。		授業態度 提出物
6	2. 国際化の進展と国際収支 3. 貿易の利益と課題	●国際収支の構造について理解させる。 ●国際収支と国内総生産などの指標との関係、また国内総生産の三面等価の原則について理解させる。 ●わが国における経済の国際化の進展について、国際収支の変化と関連付けて理解させる。 ●貿易が国民生活の維持および産業発展に必要不可欠であることを理解させ、また、貿易が比較優位の原理に基づいて行われることを理解させる。		提出物
7	4. 国際資本移動 5. 外国為替	●国際資本移動の形態と役割について理解させる。 ●金融のグローバル化について、具体的な事例を通して理解させる。 ●外国為替のしくみと外国為替相場を理解させ、それらの変遷と戦後の国際経済の経緯を理解させる。 ●外国為替相場が変動する要因、また外国為替相場の種類について理解させる。 ●外国為替相場が変動することによって発生する為替リスクについて理解させる。		期末考査

月	学習内容	学習のねらい・目標	配当時間	評価材料
9	第3章 金融市場と資本市場 1. 金融取引の発達	●金融取引の概念及びそのリスクについて理解させる。 ●取引される金融商品について確認させ、家計および企業の金融取引の現状を理解させる。	30 時間	確認テスト
	2. 貯蓄と投資の動向	●直接金融と間接金融について、それぞれ金融機関との関わりを通して理解させる。 ●経済活動における貯蓄と投資の意義について理解させる。		
10	3. 金融市場と資本市場の役割	●金融市場の概念とその意義について確認し、企業の営業活動と資金調達を通して短期金融市場の概要について理解させる。 ●資本市場の概要について、債券市場と株式市場を中心に理解させる。		中間考査 提出物
	4. 金融市場と資本市場の課題	●金融庁の役割とその諸政策を通して、金融市場・資本市場を支える行政組織について理解させる。		
11	第4章 企業経営 1. 企業経営の特色	●日本の経営の特色について、基本的な知識や概念の理解を通して考えさせる。	30 時間	期末考査
	2. 企業経営と外部環境	●わが国の企業をとりまく外部環境の変化についての知識を身に付け、企業経営に影響を及ぼしている現状について理解させる。		
12	3. 企業の社会的責任	●企業の社会的責任について、その内容を理解させるとともに、これからの企業経営のあり方について考えさせる。		
	4. 企業の海外進出と経営	●わが国の企業の海外進出の経緯とその変化について理解させる。また、国際経済の中で何が重要なのかを企業の側面から理解させる。		
1	第5章 ビジネスの創造と地域産業の振興 1. 起業の手続き	●起業の意義と経営理念の重要性、また、起業に対する支援制度について理解させる。	14 時間	提出物 学年末考査
	2. 新たなビジネスの展開	●わが国における新たなビジネスの現状について、具体的な事例を通して理解させる。		
2	3. 地域ビジネス事情	●身近な地域のビジネスの動向やビジネスに役立つ資源について調査や研究を行わせ、その結果をもとに、地域産業振興のための具体的なビジネスアイデアを考案し、ビジネスプランを作成する実習をさせる。		

2. 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
●経済や企業経営について関心を持っているか。 ●経済社会の動向について理解することを目指して、主体的に取り組もうとしているか。 ●サービス経済社会に適切に対応する実践的な態度を身に付けているか。	●経済社会の動向について理解することを目指して、思考を深めているか。 ●経済や企業経営に関する基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、外部に表現する創造的な能力を身に付けているか。	●経済社会の動向への考察やサービス経済社会に適切に対応する基礎的・基本的な技術を身に付け、活用することができるか。 ●経済社会の動向への考察やサービス経済社会への適切な対応について合理的に計画しその技術を適切に活用しているか。	●経済や企業経営に関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか。 ●サービス経済社会に適切に対応することの重要性について理解しているか。
具体例 提出物、学習態度、平常の学習活動、自己評価	具体例 平常の学習活動 課題の取り組み 発表	具体例 課題	具体例 確認テスト・考査 課題等の提出物

3. 観点別学習状況の評価の数量化

評 価	内 容	判定基準	得 点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

4. 各学期及び学年の評価方法

評 価 内 容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの	80～100	5
十分満足できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

※ 各学期の授業時数の3分の2以上出席していない生徒は、評価保留となる